

第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

筑波技術大学

平成23年5月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、3項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、3項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」とし、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画で「専門職業人・技術者としての就職を確保するため、インターンシップなどを通して職業指導の充実を図るとともに、産業界との連携に努める」としていることについて、地元のインターンシップ推進協議会訪問や企業向け説明会実施により企業との連携強化と実習先の確保に努め、卒業生の活躍状況を撮影したビデオの上映等を内容とした研修会や就職ガイダンスを実施し、インターンシップと就職をリンクした指導を行っていることは、学生の就職に対する意識の高揚につながっている点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「障害関係科目により障害の理解・克服を促す」としていることについて、学生の障害に対する正しい認識と理解を促し、障害を克服する意欲、能力及びコミュニケーション・スキルを身に付けさせるため、障害に関する多彩な特色ある障害関連科目を教授していることは、特色ある取組であると判断される。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良好」とし、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画で「障害に配慮したきめ細かい指導ができるように、TA 導入などを含め、能力別や少人数のクラス編成に必要な実施体制を整える」としていることについて、個別指導に近い少人数教育の実施や、近隣大学の大学院生によるチューターの導入、習熟度別クラスの実施、さらに、各学科独自の補習・個別指導を随時実施するなど、障害に配慮したきめ細かい指導を行っていることは、学生の学習意欲を高める成果を上げている点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「適切かつ広範な広報活動を実施し、入学者募集基準や教育内容の周知を図る」としていることについて、つくばキャンパスや大都市圏における大学説明会開催、毎年全国二十数か所での聾学校・聴覚障害団体の希望に応じたミニ説明会・講演会の実施、個別相談や各高等学校の進路指導員との情報交換会開催のほかに、新聞や関連団体の機関誌への広告掲載等、学生確保における広範な活動を行っていることは、特色ある取組であると判断される。

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」とし、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画で「聴覚・視覚の障害を補償する設備を充実するとともに、自由にアクセスできる情報システムやインターネットを十分に活用できる学習環境を整える」としていることについて、コミュニケーション手段として開発導入した遠隔地リアルタイム字幕提示システム、障害補償機器の貸出制度、全盲学生のための非接触カードによりパソコンを立ち上げる仕組み、弱視学生のためのデュアルディスプレイシステム等が有効に機能していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「障害を補償した効果的な指導方法の改善・開発をさらに推進する」としていることについて、「高等教育のための学内外視覚障害者アクセシビリティ向上支援事業」において、情報・理数系の点字図書の製作・全国無償配布、英語点訳ガイドの作成・関係機関への寄贈等を行っていることは、特色ある取組であると判断される。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」であることから判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「個々の学生の障害の状態や能力を的確に把握するとともに、各授業担当教員が学生からの意見や要望に対応するためオフィスアワーを設けるなど、学習・生活支援を進めるための体制を整える」について、クラス担任やマンツーマンのアドバイザー教員等が、月や週単位の学科会議で状況を報告・協議するなど学生に対する情報を共有し指導していることは、学生が健康管理・生活、学習等のきめ細かな支援を受けている点で、優れていると判断される。
- 中期計画「新たな就職先の開拓、進路・就職に関する講演会等の充実、学生のコミュニケーション特性に応じた面接指導、就職後のフォローアップ等を推進する」について、企業との積極的な連携のほか、アドバイザー制度による学生一人ひとりの適性と目標に合った徹底した支援体制により、高い就職率を得ていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「新たな就職先の開拓、進路・就職に関する講演会等の充実、学生のコミュニケーション特性に応じた面接指導、就職後のフォローアップ等を推進する」につ

いて、在学生の就職支援を行うだけでなく、卒業生の職場適応、転職等に関する相談に応じ、問題が生じれば就職先企業と連携して対応するなど、就職後のフォローアップも行っていることは、特色ある取組であると判断される。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「おおむね良好」とし、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

- 中期計画で「聴覚・視覚障害者のための教育に関する研究成果については、障害者高等教育研究支援センター等の整備・充実を図ることにより、関係教育機関に還元する」としていることについて、調査研究誌『テクノレポート』、『TCT Education of Disabilities』や2大プロジェクト（「高等教育のための学内外視覚障害者アクセシビリティ向上支援事業」及び「高等教育機関のアクセシビリティ向上を目指した筑波聴覚障害学生高等教育テクニカルアシスタントセンター（T-TAC）の構築事業」）の研究成

果等を、内外の高等教育機関、障害関係機関、特別支援学校等へ提供するとともに、公開講座、シンポジウム、各種展覧会、フェスティバル等において、研究開発の成果を積極的に障害者高等教育現場に還元し、障害者高等教育の進展への貢献を目指していることは、特色ある取組であると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。
平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「おおむね良好」であることから判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

- 中期計画で「障害者教育及び支援に関する国際的・全国的な研究会を開催し、共同研究を進める」としていることについて、アジア地域における聴覚・視覚障害者支援に関する高等教育の中心的な機関として、聴覚・視覚障害者の高等教育、就労に関する全国的及び国際的研究集会・協議会等を、毎年、多数の内外の参加者の下に数多く開催し、障害者支援に関する高等教育の情報交換・共同研究を活発に行っていることは、特色ある取組であると判断される。

(Ⅲ) その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標(2項目)のすべてが「良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標(2項目)のすべてが「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」であることから判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画で「開発した支援機器を用いて、他大学等で学ぶ聴覚・視覚障害学生並びに学会等に参加・発表する聴覚・視覚障害者への支援を行い、両障害者の社会進出に貢献する」としていることについて、聴覚障害者のための遠隔地リアルタイム字幕提示システムと遠隔情報保障システムによる他大学の支援を行い、学会、研修会等における支援実績を積み重ねていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「諸外国の障害者教育に係る大学と国際交流を進める」及び「国際交流協定締結大学等との間で国際会議・研究会を行う」としていることについて、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）の中核校として、また、アジア地域における聴覚・視覚障害者支援の高等教育研究の発展的モデル機関として、国内外の大学及び関連機関と連携して、共同事業・シンポジウム・研究会・会議・セミナー等を実施し情報交換・支援をするなど、積極的に国際的活動を行っていることは、特色ある取組であると判断される。

② 保健科学部附属東西医学統合医療センターに関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「保健科学部附属東西医学統合医療センターに関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」であることから判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「地域医療機関としてより積極的な役割を果たすため、医師・鍼灸師等の

診療体制の強化や事務体制の整備など、患者のニーズにあった診療体制の充実、整備を検討する」について、専任の医師1名・鍼灸師2名、学部から医師6名・鍼灸師10名と研修生（平成17年度23名、平成18年度25名、平成19年度25名）を加え、特任教授も増員したことや、臨床の場において鍼灸・手技療法の研究を推進し、知識・技術の向上を図り、患者のニーズに的確・迅速に対応していることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「教育研究に係る診療の場として機能するとともに、西洋医学と東洋医学を統合した研究と診療、施術を開発し、地域医療に貢献する」について、国立がんセンター中央病院との「がん治療副作用に対する統合医療の研究」の実施や、がんと鍼灸研究会の設立等、東西医学を統合した研究と診療・施術の開発を行っていることは、特色ある取組であると判断される。